

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第七十四話

「判官館の伝説と新冠の黒狐（伝説）」 (要約文)

新冠川の河口に突き出ている岩を、現在は源義経の城跡だといって「判官館」と呼び、義経が馬で登った跡があるなどの説がある。しかしそれは、近年になって伝えられた話で、昔のアイヌ民族はこの岩をポロヌプリ（大きな山、または親山）と呼んで大切にしていた場所である。ここには、黒狐が住んでいて、漁のことも、コタン（集落）に何か悪いことが起こるときでも、それから護ってくれるからである。

【黒狐の伝説その一】
昔、どこから攻めて来た敵かわからないが、この付近の人達が襲われ、生き残ったわずかの人々がこの岩の上に隠れていた。やがて、そこもひどく攻められて逃げ場を失ったとき、ポロヌプリの神に祈りをささげてから、ガマで織ったムシロをひらげて岩の上から飛びおりた。すると、鳥のようにふわりと飛べて、怪我もなく無事に逃れることができた。
これは、この黒狐の守護があったからであるという。

【黒狐の伝説その二】
新冠川を上流の方へ向かうと、去童（サル

ワラベ）という場所があった（現在の朝日あたり）。ここに、二匹の黒狐がいてコタンの人達はこれを神様として尊敬し、何かあると酒をあげて祈願することを常としていた。
あるとき、漁場に働きに行っていた老人が何か間違いをしたため、親方に散々叩かれた上に縄でしばられて庭に投げ出されていた。すると、夜に一匹の黒狐があらわれて、その老人の縄を解いて助けてやった。
またあるときは、この黒狐が祭壇に来て「フォーフォー」と騒いでいた。これは何か変わったことが起こるにちがいないと思い、もしその悪いものが沖から来るものなら山へ向かってくれ、山から来るものなら沖へ向かってくれと頼んだ。すると、黒狐は山の方へ行つたので、コタンの人々に山の高台へ逃げるよう伝えた。すると間もなく、恐ろしい津波がやって来たのだ。
それほどありがたい神様なので、酒をあげるのだ。



今回のお話は、『新冠百話絵本』に掲載されています。読み聞かせの会「びっくり箱」がお子さんにもわかりやすく理解できるように、絵本にしています。

戸籍の窓

10月21日～12月5日までの届出分(敬称略)

●いつまでもお幸せに

堀内 篤志 ♡ 佐野 彩 美 宇
原田 雄基 ♡ 久保山 綾乃 東 町
三宅 秀一 ♡ 細川 映里香 西泊津

●お誕生おめでとうございます

黒川 笑架(わかば) (祐希 茜) 東 町

●おくやみ申し上げます

柴村 時子 84歳 東 町
北所 京子 73歳 北星町
外島 雄一 93歳 新 栄
関口 末太郎 77歳 節婦町
矢野 薫 68歳 東 町

●お問い合わせ先

町民生活課町民生活グループ住民係
☎ 0146・47・2112

冬型交通事故の防止に向けて

- 早朝・夜間は路面凍結のおそれがあります。早目のブレーキを心掛けましょう
- 年末年始・帰省先等における飲酒運転の根絶
- 交差点等における安全確認の徹底

静内警察署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期			
区分	火災件数	救急件数	災害出動件数
11月	0件(0件)	43件(24件)	0件(2件)
6年1～11月	4件(4件)	281件(310件)	16件(28件)
交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期			
区分	発生件数	死者	傷者
11月	1件(0件)	0人(0人)	1人(0人)
6年1～11月	5件(3件)	0人(0人)	8人(3人)

人のうごき

人口 5,030人 (前月比 - 16人)
男 2,531人 (前月比 - 14人)
女 2,499人 (前月比 - 2人)
世帯 2,808世帯 (前月比 - 18世帯)

(令和6年11月末現在)